

第2回門真市パークイノベーション計画審議会
主な委員意見と対応方針

No	分類	発言者	意見内容	対応方針
1	引接環境とアクセス性からみた	佐久間副会長	隣接環境とアクセス性からみた小さな公園の6類型について、ロジカルに整理していただき、わかりやすく示していただきたい。	各公園の方針を検討するうえで重要な視点となるため、基本計画などにおける記述において、これらの特徴を示すこととした。
2	小さな公園の類型について	加我会長	まずアクセス性（接道条件）で大きく分けて、次に隣接する建物の種別を見る、といったように考えてはどうか。	
3	利用実態調査結果について	加我会長	小さな公園の利用の大半は通り抜けという国の調査結果もある。滞留行動のほか、通り抜けできそうかどうかも含めて、確認いただくとよいのではないか。	ご指摘の通り確認し、各公園の方針を検討する。
4	カルテの施設からみた機能について	加我会長	凡例は公園の中にある施設をもとに判断されているが、「地域コミュニティ」だけ施設ではないので、名称を検討していただきたい。	「自治会掲示板、倉庫」など、判断した施設名等を用いた名称に修正する。
5		松本委員	遊びの広場の中、小、グラウンドの仕分けについて、定量的に書けるのであれば基準を示した方がよい。	グラウンドについては、占用利用が可能な四宮公園、北打越公園のグラウンド、概ね80㎡以上の広場を有する広場を中、それ以下の広場を小として分類しているため、その旨を記述する。
6	カルテの構成について	加我会長	各地域の一枚目の記述は、公園をとりまく地域の特徴の内容で記述していただきたい。2枚目以降の、施設からみた機能や、利用実態調査結果、アンケート結果などからわかる内容が先に記述されてしまっている。	ご指摘をふまえ、カルテの文章記述の構成や書きぶりを修正する。
7		長委員	背景に関することは前に、まとめは最後にまとめて示す方がよい。	
8	市民WSの目的について	加我会長	今後、再整備・再配置方針を行政で立ち上げるにあたり、盛り込むべき考え方や公園の見方のようなことを、市民の方々に教えていただくということが、今回のワークショップの目的になると思う。利用実態調査など基礎調査結果だけで判断すると不要となってしまうような公園も、市民の皆さんの目線で見ると単純に判断できない、といったことをお聞きする、ということかと思う。	ご意見の通り、市民意見もふまえ、各公園の方針を精査する。

No	分類	発言者	意見内容	対応方針
9	具体方策について	佐久間副会長	公園を中心として学校や民間施設を活用しながら公園のあり方を考えることがポイントになると思うので、次回の審議会で期待している。(大和田駅南側の公園が少ないエリア、松生町や古川橋の開発との連携等)	ご意見の通り、基本計画において、関連事業のエリアを明示するなどして、これらに関連する各公園の方針について記述した。 また、学校のグラウンドの活用や、公共公益施設との連携の可能性、自治会館と併設されている公園の方針などについても記述した。
10		松本委員	WS で出てきづらいと思われる防災の観点のこと、特に広場機能としての存在価値や利用価値からみた検討も必要。具体方策の中に個別に挙げても良いのではないか。	ワークショップにおいても、密集市街地における公園の必要性に関する意見や、公園の規模に応じた防災上の役割に関する意見なども出たため、これらのご意見も踏まえ、防災上の観点から基本方針などを設定した。
11		加我会長	WS は利用に関する議論が中心になるので、存在価値、特に防災の観点から、密集市街地の中で確保していかなければいけない、ということの評価することを忘れないようにしていただきたい。	
12	社会実験について	加我会長	東小学校で実施されているボール遊びができる公園について考える、という取組について、担任の先生などからご紹介いただける機会があると良いかもしれない。	第4回ワークショップの発表会において、東小学校5年2組の取り組みについてご発表いただいた。